

目的 前報において、60個の評価用語から構成される単極尺度を用いて服装を評価し、その結果を多次元尺度分析して服装評価における基本的な3次元{派手/地味}、{カジュアル/フォーマル}、{上品/下品}を抽出した。この場合、因子分析における因子の命名と同様に、評価用語の3次元布置状況を基に各次元の持つ意味を直感的に推定したが、この視覚に基づく次元の解釈は研究者の恣意によって偏りを生じる危険性がある。そこで、本報においては、Rosenbergらがパーソナリティの評価の研究において使用した方法を応用し、前報で得た服装評価次元の解釈の妥当性を検討した。

方法 各評価用語と{派手/地味}、{カジュアル/フォーマル}、{上品/下品}(次元尺度と呼ぶ)との関連度を測定し、この尺度値を従属変数として用い、多次元尺度分析の結果得ていた各評価用語の1~3次元座標値を説明変数として重回帰分析を行った。その結果、得られた各次元尺度を3次元空間に写像して各次元の持つ意味を考察した。

目的 重相関係数は1,2,3次元尺度に対してそれぞれ0.893^{..}, 0.920^{..}, 0.803^{..}となり、いずれの次元尺度についても高く、各次元尺度が用語の布置の座標によく当てはまっており、また、該当する次元の偏相関係数(0.732^{..}, -0.821^{..}, 0.558^{..})も大きく、各次元尺度は該当する次元軸に近接して写像され、前報の次元の解釈が妥当であったことが示された。また、各次元尺度は直交せず、「派手」側、「カジュアル」側、「下品」側が互いに接近した斜交軸を与えた。この服装評価次元軸の斜交は服装評価の実際をより正確に表現しているといえる。